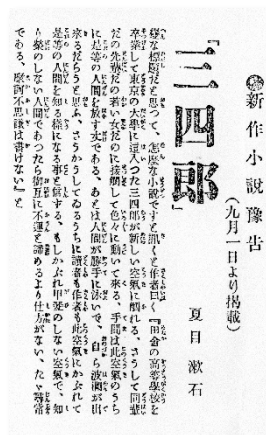
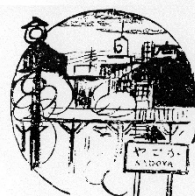


【講座名】

夏目漱石『三四郎』の世界

— 群像劇として読む青春小説 —

【講座の紹介】



大学の教員から転身して新聞小説家となって一年半、漱石は『虞美人草』や『坑夫』『夢十夜』などの試行錯誤を経て『三四郎』を書き始めました。当時の新聞読者の心をつかんだ『三四郎』の魅力とは何でしょうか。本講座では、東京帝国大学に連なる人々の群像劇として『三四郎』を読み解き、外国文学や絵画、同時代状況などを踏まえて、『三四郎』の奥深い小説世界を探っていきます。

開催日	時間	講座内容
9/12(木)	10:00~12:00	漱石の新たな試み — 朝日新聞「新作小説予告」を読む
		上京する青年・三四郎に与えられた喜劇性
		東京帝国大学に連なる男たちの世界
		物語を横断する『ハムレット』—「水の女」美禰子の造形
		男を誘う美禰子と女性をめぐる同時代言説
		「迷羊 ストレイシープ」の苦悩と美禰子の諦念

開講日：2019年9月12日(木)

時間：10:00~12:00

受講料：無料

募集人数：20名 一般対象（抽選）

開催場所：豊田産業文化センター

講師：山口比砂（一般学科 准教授）

共催：豊田市 後援：豊田市教育委員会